

「主キリスト・イエスを知ることの素晴らしさ」(フィリ3・8)

四旬節第5主日C年

きょうの典礼の第二朗読において、聖パウロはキリストを知るあまりの素晴らしさについて語っています。そこには、キリストがご復活に先立って、ご自分を無にされたこと、人となられたこと、多くの苦しみを受けられたこと、十字架上の死を忍ばれたことに関する彼自身の深い悟りを暗示しています。その悟りによって、キリスト者を迫害するサウロからキリストの弟子、キリストの使徒となるパウロに変えられました。同じ悟りの意味でヘブライ人への手紙の著者は、「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました」と言っています(1・1)。神の民は聖書を神のことばとして認めますが、そのみことばが「人間となられた」ことを知ると、すべてを変貌する悟りをいただいたこととなります。

きょうの第一朗読はその変貌の一つの例となるでしょう。そこには神の民の奴隷状態からの解放が記されています。そこで、モーセは水から救われてエジプトの王女の子として認められたにもかかわらず、神の民の解放に伴う苦しみを受け入れるのです。しかし、ヘブライ人への手紙の著者は、モーセの苦難についてそのように語ってはいません。その代わり、「モーセは成人したとき、ファラオの王女の子と呼ばれることを拒んで、神の民と共に虐待される方を選び、キリストのゆえに受けるあざけりをエジプトの財宝よりまさる富と考えました」(11・23参照)と言っています。ですがどうしてキリストが生まれる数世紀前に、そのように、キリストのことを口にするのでしょうか。それは、著者がサウロを変えた悟りを持って、旧約のすべての神の友、神の民の苦しみのうちに、キリストの十字架を認めることができたからです。そのように、キリストについての崇高な悟りによって、ヘブライ人への手紙の著書の解釈は変貌されたのです。

福音にも、似たような例が見られます。ファリサイ派の人々と律法学者は、自分たちが認めることができない聖書と伝統の解釈をするイエスのことを聞いていました。というのも、パウロが持っているキリストについての崇高な認識は、イエスのみ心と活動の中に、すでに働いていたからです。最初の創造はこの宇宙が無から造られましたが、第二の創造は、主イエスが十字架上の激しい苦しみによって、罪によって滅ぼされている心を、神の命が流れる聖霊の神殿となる心に造り変えられます。福音では、ファリサイ派の人と律法学者が姦通を犯している女をイエスのところに連れ出して、尋ねます。「モーセは、律法の中で、こういう女を石で打ち殺せと命じています。あなたはどうかお考えですか」。これにたいして主がどのように女を殺さずにすんだかはお聞きになりました。そこで主は律法を再解釈し、再び罪を犯すことをしない心を造られます。主のことばは、新しい生活、新しい始まり、新しい創造を可能にされます。「婦人よ、わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない」と。そのおことばは、主の行動に働いている、ご自分についての悟りの結果です。その悟りは、主イエスの弟子たちの心にも伝えられます。彼らはそれによって聖書と人間の生活について新たな解釈ができるようになりました。

十字架の光に照らして、聖書の読み方が変貌される二つの例について考えました。しかし、聖書が書き記される前に、アブラハムが神のことばを受け入れる前に、神は、人類に、ご自分のコスミックなことば、つまり宇宙の創造によって語られました。種々の文化は種々の仕方で宇宙のとらえ方をしますが、聖書はそれを神の被造物として紹介しています。それにヨハネ福音書は、みことばによらずに造られた物は何一つなかったと明らかにしてくれます。その結果、宇宙全体は、何らかの形で「造り主」の素晴らしさを映し出しています。わたしたちは、自分たちを感嘆させる宇宙の秩序や、魅力を感じさせるその美のうちに、限りない神のことばの命と美の映しを認めることができます。しかし、そこに付け加えるべきことがあります。つまり、わたしたちの宇宙は、非常に良いものですが完全なものではありません。地を潤す恵みの雨がありますが、命を滅ぼす台風もあります。実りをもたらす秋がありますが、日照り続きで実を結ばないこともあります。春の美しい花々で楽しませてくれる思えば、花粉症で苦しませることもあります。季節の穏やかな移り変わりがある一方、恐ろしい地震や津波もあります。それらのことに耐えるには、並み並みならぬ忍耐を必要とします。不完全で、忍耐を要するこの宇宙を造られたみことばは、人間となり、十字架によってその忍耐を教えに來られました。神の無限の知恵は、完全な宇宙の代わりに、わたしたちの忍耐を養う不完全な宇宙の方をお選びになりました。その結果わたしたちは、新しい創造、新しい命をもたらす主の十字架に与ることができます。実は、わたしたちを主の十字架に一致させる尊い忍耐によって、サウロをパウロに変えたキリストについての素晴らしい悟りへの扉が開かれるのです。

主イエスを知ることの素晴らしさに目覚めることは、聖パウロの特権ではなく、すべてのキリスト者に与えられる賜物です。わたしたちは皆、御父からイエスの永遠なる誕生、時の中のイエスのマリアからの誕生を認めます。それに、宇宙は、主の愛、真理、美を映し出し、主が救ってくださる働きをアブラハムとモーセ、イサクとヨセフ、エリアとイザヤ、エステルとユデット、ホセアとエレミヤの生活のうちに認めます。それに、毎日出会う出来事の中に、みことばに出会っています。心を開けば、それらの真理の素晴らしさ、崇高さに目覚め、深く実感することができます。そうした感情は、ますます一身を新たな奉獻に導くでしょう。

そうした一身の奉獻には、どこまでも主に従い、鳥には巢もなく、狐には穴がないというところまで従う決心が伴います(マタ 8・18-20)。ですから、わたしたちを含めた罪びとの敵対から主が受けられた苦しみを深く思い巡らしましょう。そうすれば、主の道を歩む疲れは癒され、くじけることはないでしょう。伴侶として受け入れられ、一緒に歩むようになれば、詩編のあのことばを死ぬまで歌うことができるでしょう。「あなただけに自分の力を見だし、あなたとの旅を自分の住まいにする人は幸い」(詩編 84・6 参照)。主に委ねる心も育てられるでしょう。自由に、平安と喜びのうちに、主に従う自分の歴史、旅の道のり、主が定める歩みの速度、道の疲れ、待つべき時、いただく食べ物、味わう人間的な孤独、身体と精神的健康、委ねた心で待つ死をそのまま受け入れる。主はわたしたちから愛されていることをご存じです。御子とその存在、心、生活、十字架を与えてくださった御父の愛に応えたいこともご存じです……。